

南 高

同窓会会報

発行所

四日市市大字日永字岡山
三重県立四日市南高等学校
同窓会
TEL059-345-3177
https://www.mie-ced.jp/hsyok/
07_Alumni_association



ご挨拶

三重県立四日市南高等学校同窓会

会長 矢野 正 剛

同窓会員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より三重県立四日市南高等学校同窓会の活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

近年、少子化の進行や社会構造の変化に加え、人工知能（AI）をはじめとするデジタル技術の急速な発展により、私たちを取り巻く環境は大きく変わっています。教育現場においても、知識を身に付けるだけではなく、自ら考え、判断し、多様な人々と協働しながら課題を解決する力が、これまで以上に求められる時代となりました。こうした変化の中にあっても、人と人とのつながりや、母校を思

う気持ち、世代を超えて受け継がれる絆は決して変わるものではありません。同窓会は、卒業生同士を結び、母校と卒業生、そして未来を担う後輩たちをつなぐ架け橋として、その役割を果たしてまいりたいと考えています。

さて、このたび同窓会では、会報をデジタル版として発行することといたしました。会員の皆様へ、より迅速に情報をお届けできることに加え、スマートフォンやパソコンからいつでも気軽にご覧いただけるようになります。また、印刷や郵送に係る経費の削減、資源の有効活用にもつながり、持続可能な同窓会運営の一助になるものと期待しております。

デジタル化は手段であり、目的は会員相互のつながりをより深めることです。これまで紙の会報が果たしてきた役割を大切にしながら、新たな形で母校の近況や同窓会活動、卒業生の活躍をお届けし、世代を超えた交流の輪を広げていきたいと考えています。特に若い世代の卒業生にも身近に感じてもらえる同窓会を目指し、情報発信の充実にも努めてまいります。

す。

会員の皆様には、ぜひデジタル会報をご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。皆様のお力添えが、同窓会のさらなる発展につながります。

結びに、会員の皆様のますますのご健勝とご多幸、ご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、三重県立四日市南高等学校のさらなる発展と、在校生の輝かしい未来を祈念し、ご挨拶いたします。



開拓者精神を胸に

校長 西川 俊 朗

平素より母校のために格別のご理解とご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

様々な分野で社会をリードされ、南高の開拓者精神を体現されている同窓会の皆様の存在は、在校生にとっても大きな憧れであり、誇りです。

さて、南高では、良き伝統を受け継ぎつつ、今年度から新たに、大学卒業後のキャリアを見据え、早期から社会のリアルや学問の最先端に触れ、視野を広げる仕掛け・き

かけづくりを、次々とスタートさせております。

六月に、七十名を超える南高生が自発的に参加した「南高独自の、名古屋大学キャンパス・ツアー」を実施し、名大や大学院に在籍する現役の南高卒業生十六名と「クロス・トーク」を交わしました。さらに、名大の教授陣をお招きして対面で学ぶ「名大 Live Showcase」も年間六回の予定で新たに始動し、最先端研究に触れる環境を整えています。

また、「企業・四日市市役所訪問」では、地元の行政や世界の最前線で働かれている同窓会の皆様のご支援のもと、現場を五感で体感しました。「質問が非常に鋭く、社会問題への関心の高さに感銘を受けた」、「南高生のみずみずしい熱気に触れて、私たち大人のモチベーションまで上がった」といったフィードバックをいただいております。

さらに、「未来の先生プロジェクト」では、南高生有志が市内中学校を訪問し、授業参加に加え、高校受験の助言や本校の魅力を明るく、全力で発信しました。中学生から、「あんな素敵な青春がしたい、早く高校へ行きたい!」といった感動の声を多くいただきました。

南高生たちは、自ら、登城ヶ丘から地域へ、そして社会へと歩みを拡げております。

私は南高生に、【内側から湧き

出る「志」をたてること】、【他者と対話し「信頼構築」すること】、【リスクを恐れず決断し、責任を引き受けること】を大切に、と伝えていきます。

そして、これらを支える土台として、困ったときに周囲を頼れる力、すなわち「受援力」を大切に、一人で抱え込まず「助けて」と言える勇気と思いやりを満ちた、温かい人間関係を築こうと伝え続けております。

また、私は日々、「南高生の可能性は、無限大!」と伝えております。そして、その可能性の土壌を耕し、豊かな水を注ぎ続けてくださっているのは、他ならぬ同窓会の皆様が築いてこられた歴史であり、変わらぬ母校への愛情です。現在の厳しい社会情勢や外部環境の変化に一喜一憂することなく、南高でしか得られない唯一無二の価値、魅力をこれからも磨き上げ、力強く発信していきたいと存じます。

結びに、同窓会は、世代を超えてつながる皆様の絆を深め、母校の「今」と「未来」を共有する大切な架け橋です。本会報を通じて、登城ヶ丘の懐かしい思い出とともに、母校への想いを新たにしていただければ幸いです。

同窓会の益々のご隆盛と、同窓会の皆様のご健勝とご多幸、そして今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

南高Cross-Talk：先輩から学ぼう！

令和8年7月8日（水）

1年生を対象に様々な職業の同窓生による講演会が行われました。今年度からは講演会ではなく、生徒が主体となって先輩とのクロストークが実施されました。

吉野 弦太 さん（34期）

のぞみ総合法律事務所 弁護士
（元 検事）

高校時代の決意から法学部の大
学へ進み1998年に司法試験に
合格され、検事として重大事件や
特捜部での政財界不正の捜査に尽
力されました。その後2016年
に弁護士へ転身され重工業から芸
能・スポーツまで幅広く顧客を支
え、ネットの誹謗中傷等とも戦っ
ています。検事や弁護士の仕事を
通じて死と向き合い小事に動じな
くなったそうです。「これが好きと
いう自分を信じる力で夢は叶う。」
と後輩に温かいエールを送られま
した。

井畑 柊真 さん（58期）

太平化学産業株式会社・研究開発部

高校時代は実験好きな先生の授
業を受けたいため「生物」を選択
されました。大学では生物圏生命
化学を専攻し、昆虫毒の成分分析
等の研究（実際に毛虫の毒にあえ
て自ら刺され、その影響や症状を
観察・記録）をされました。現在
は太平化学産業の研究開発部で食
品添加物の用途開発等に従事され
ております。「仕事をしていても高
校の化学は重要。1年生の夏休み

に複数のオープンキャンパスに行
くと良い」と助言をいただきました。

神原 淳子 さん（31期）

新宿区立落合第六小学校 教諭
（元 気象予報士キャスター）

理学部で気象学を学び、気象情
報会社でデータ解析やキャスター
を経験した後、通信教育で小学校
教員免許を取得し、現在は小学校
教員として活躍されています。気
象予報士試験では、理系の知識だ
けでなく、文章でわかりやすく説
明する国語力の大切さにも触れら
れました。また、「人生には何度で
も転機がある」と、自身の転職経
験を交えて語り、高校時代は何事
にも全力で取り組むことの大切さ
を後輩たちに伝えてくださいまし
た。

福田みち乃 さん（53期）

古川学園向陽台高等学校 教諭
（元 ホテル業）

高校時代は生徒会や硬式テニス
部、軽音部で活動し、大学では体
育分野を学びながらアルティメッ
ト（フリスビー競技）にも挑戦さ
れました。卒業後は教員、ホテル
業界を経て、現在は再び教員とし

て勤務されています。それぞれの
仕事の魅力や働き方を比較した経
験から、「知らない職業は選択肢に
入らない。自分の可能性を広げる
ためにも、さまざまな仕事を調べ
てほしい」と在校生へエールを送
られました。多様な経験を積んだ
からこそ言葉が、生徒たちの心
に深く響きました。

杉村 圭亮 さん（56期）

四日市市役所都市計画課
（元 起業家）

高校時代はサッカー部に所属し、
卒業後は大学で経営学を学ばれま
した。大学3年次には起業家支援
基金のピッチコンテストで賞金を
獲得し、北欧やブータンなどを訪
問。その旅での出会いをきっかけ
に、アグリテックベンチャー企業
の創業メンバーとして海水農業技
術の開発に携わられました。その
実績が評価され、2023年には
Forbes JAPAN「30 UNDER 30」
に選出。「高校生のうちに将来像を
描くのは難しいが、好きなことを
大切にしたい」と後輩たちへ
温かいエールを送ってくださいまし
た。

内山 英俊 さん（62期）

住友理工株式会社 防振技術部

高校時代は野球部に所属し、卒
業後は工業高校の専攻科に進学、
その後、工業大学の機械学科へ編
入されました。現在は、自動車の
防振ゴム製品の設計・開発に携わっ
ておられます。自身の経験から、「ク

ラブ活動と勉強の両立は大変です
が、科目ごとに勉強時間を決めて
メリハリをつけることが大切です。
また、理系志望だからといって文
系科目をおろそかにせず、逆に文
系志望でも理系科目を大切にして
ほしい」と後輩たちへエールを送っ
てくださいました。

矢澤 浩成 さん（31期）

中部大学 生命健康科学部
理学療法学科 講師

高校卒業後、三重大学工学部へ
進学されましたが、自身の夢であっ
た医療の道を目指すために中退し、
理学療法士の資格を取得されまし
た。病院勤務を経て、現在は中部
大学生命健康科学部理学療法学科
で教員として、未来の理学療法士
の育成に携わっておられます。講
話では、自分の「やりたいこと」
を大切にし、進路は途中で変更し
てもよいことや、勉強だけでなく
仲間とのコミュニケーションや協
力する力の重要性について語られ
ました。また、高校生活では部活
動や学校行事も全力で楽しみ、日々
の学習を習慣化することが将来に
つながると、後輩たちへ温かいエー
ルを送ってくださいました。

小井理紗子 さん（58期）

菟野町菟野小学校 教諭

数理科学コースを卒業したあと、
三重大学教育学部で教育心理学を
学び、現在は小学校教員として活
躍されています。全教科を担当す
る小学校教員ならではのやりがい

や苦労、子どもの学習意欲を引き
出す工夫について、自身の学びや
経験を交えて紹介してくださいま
した。また、受験では結果よりも
努力する過程を大切にすること、
高校生活では仲間とともに行事や
勉強に全力で取り組むことの重要
性を伝えられました。教師として
は、一人ひとりの良さを認め、人
格を否定しない指導を心掛けてい
るという言葉が、生徒たちの心に
深く残りました。



Teaching Practice 教育実習

今年も前期の教育実習が行われました。61期及び62期生の方々に感想をお聞きました。

宮田 莉奈（美術）

最初はカチコチで自己紹介の内容も飛び、全くクラスに馴染めず、かなり心配でした。しかし、日数を重ねるごとに生徒に話しかけたり、授業で声掛けをしたりすることができるようになり、今日はもつとこうしてみよう！と工夫する日々がとても楽しかったです。また、研究授業では全くのゼロから授業を作らせていただき、生徒の反応を見ながら授業をさせてもらうとても貴重な機会になりました。3週間もあつたはずの実習期間があつという間に終わってしまった少し寂しいですが、夢に向かって頑張る南高の生徒の皆さんをこれから応援しています！

川村 恭大（保健体育）

実習期間を通して、失敗することも多く、そのたびに多くの先生方からご指導をいただきました。実際に自分が授業を担当した際には、生徒ができなかった課題を、アドバイスを通して克服し、喜ぶ姿を見ることができ、教師としての

やりがいを感じることができました。

また、教室や部活動など、様々な場面で生徒と関わった時間は、自分にとってかけがえのないものとなりました。二週間という短い時間ではありましたが、この実習で得た経験や学びを今後に生かし、さらに成長していきたいと思っています。

江森 蒼空（生物）

3週間の教育実習を通して、文理選択前の1年生に向けて作る必要がある生物基礎の授業を作る難しさ、大変さを学びました。どうしても生物基礎の内容を分かりやすい表現で正しく、いかに生徒が興味・関心を保てるような授業を作ることができると悩みました。

しかし、授業数を重ねていく中で、自身の授業を振り返ることや指導教員の方からのご指摘により、多くの技術を学ぶことができました。授業時間以外に関しても、テスト期間に生物の勉強を教えたり、放課後に進路についての相談に

のつたりしました。この3週間を通じて教員として働くことの責任感や楽しさを実感することができました。

赤紫 尚能（地歴）

3週間ありがとうございました。最初は思ったような授業をすることができず、悩むこともありましたが、授業後の反省会でいただいたご指導や、授業見学で学んだことを反映し、少しずつ改善することができました。少しの工夫で教室の雰囲気が変わるのを感じ、教員という仕事の奥深さややりがいを感じました。

また、ホームルームや部活などで生徒のみなさんと親交を深めるなかで、南高生時代に教師を志したきっかけを思い出すことができました。貴重な機会をくださった先生方や生徒のみなさん、本当にありがとうございました。

近藤 瑞季（生物）

教育実習が始まった当初は、緊張と不安な気持ちでいっぱいでしたが、指導教員の先生をはじめ、諸先生方や生徒の皆さんに温かく迎えていただき、精一杯頑張ることができました。

実習を重ねる中で、改めて先生方の凄さや、授業に込められた思いを強く感じました。最初は上手く授業ができないことが多かったですが、先生方や生徒の皆さんからフィードバックをいただき、自分自身でも少しずつ成長を実感できたことが嬉しかったです。

改めて教諭という仕事の大変さを実感した一方で、それ以上のやりがいや楽しさを実感した実習となりました。3週間という期間の中で、本当に多くのことを学ばせていただきました。改めてありがとうございました。

高原奈々花（国語）

二週間の教育実習を通じて、改めて人に教えることの楽しさを感じると同時に、難しさを感じました。たくさん時間をかけて教材研究をして授業に臨んでも、多くの課題が見つかり、毎日自分の成長を感じることができる二週間でした。授業を重ねるごとに、自分の

中でも教材の解像度が上がっていき、伝えたいことがどんどん増えていきました。

授業外でも生徒とコミュニケーションをとることができました。「先生の授業分かりやすいです」と直接伝えに来てくれた生徒もいて、すごくうれしかったです。この体験を忘れることなく、これからも頑張っていきたいです。



これから教育実習を希望される予定のみなさんへ

教育実習の申込受付は、毎年4～5月中旬におこなっています。実習予定年度の前年に申込手続きをしてください。受付日程や申込方法の詳細は、四日市南高校ホームページをご覧ください。

躍進する部活動

サッカー部

男子77名女子20名で活動しています。

部員間のコミュニケーションを密にし、すべきことを明確にして限られた時間を工夫して取り組んでいます。「主体性」を身につけ「誰からも応援してもらえよう」そして一人ひとりが輝ける場所になるよう活動しています。現在、男子は2部、4部リーグに所属し奮闘しています。

OB・OGの皆様、是非応援してください。

バスケットボール部

今年度は、男女ともに県総体地区予選で5位となり、県大会へ出場することができました。県大会では男女ともに初戦敗退となってしまうしましたが、最後まで諦めずに戦い抜くことができました。県大会での勝利を目指し、男女ともに仲間と切磋琢磨しながら練習に取り組んでいます。これからも応援よろしくお願いいたします。

バレーボール部

4月に1年生を迎え、男子は約20名、女子は約40名（マネージャー

を含む）の部員が集まり、盛り上がりを見せています。1・2月の新人大会は、男女ともに予選を突破し、男女ともに健闘することができました。

6月から男女とも新チームになり、限られた時間の中でも基礎を疎かにせず、規律ある行動をし、みんなに応援してもらえ、そんなチームにしていきたいです。そして、男女とも、県ベスト16を目指し、日々精進していきます。

卓球部

いつもありがとうございます。卓球部は多くの新入部員を迎え3年生引退後は35名で日々練習に励んでいます。練習も生徒が自ら考え実行し、その成果を顧問と共に検討するサイクルが確立しつつあります。また、県予選を勝ち上がり中部日本卓球大会等に出場する選手も出てきております。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

家庭部

1年9名、2年8名、3年5名の計22名で活動しており、自分達で季節ごとにメニューを検討し調理実習を行っています。文化祭で

は、「米粉スノーボール」、「卵なしのクッキー」「伊勢抹茶とフェアートレードチョコ入りマフィン」などを販売しています。

箏曲部

現在部員は、3年生2名、2年生7名、1年生9名の計18名で、生田流正派大師範の森雅笙先生の熱心な指導の下、練習に励んでいます。

7月末には「第50回全国高等学校総合文化祭秋田大会日本音楽部門」に出場し、優秀賞・文化庁長官賞をいただくことができました。8月5日には日本音楽演奏会が行われ、保護者の方を含め、多くの方々に私達の演奏を聴いていただくことができました。今後とも温かいご声援をよろしくお願いいたします。



柔道部

新入生2名（男子）が新たに入部し現在男子4名で活動しています。大会ではひとつでも勝ち進めるよう頑張っていきたいと思っています。

よろしくお願いします。

美術部

新入部員2名を加え、合計9名で活動中。昨年も波切の大王荘を拠点に合宿を実施し、本年度も同場所にて合宿制作を予定しています。夏期休業中には、南高祭、みえ高文祭に向け大作を制作。続いて北勢・鈴鹿地区高校美術展への出品を予定しています。お時間があれば、是非ご高覧ください。

ソフトテニス部

男子3年4名、2年5名、1年8名、女子3年7名、2年5名、1年7名、合計36名で活動しています。男子の目標はベスト4に入って東海総体に出場することです。女子は、団体ベスト8に入賞することが目標です。部活動を通じて、仲間との絆や感謝の心を養いつつ、伝統を引き継げるよう、日々練習に励んでいます。

ハンドボール部

男子は県新人大会と県総体で2

位となり、4年連続で東海総体に出場することが出来ました。女子は、県新人大会・全国選抜県予選では4位でしたが、県総体で3位となり、目標としていた2年ぶりの東海総体出場を果たしました。新チームもさらに上回る成績を収められるよう取り組んでいます。

バドミントン部

今年の県総体も、活気ある熱戦が繰り広げられました。結果は男子1回戦、女子1回戦敗退でしたが、男女あわせて25名の3年生が最後まで活躍してくれました。現在は23名の新入部員を迎え、計46名で新体制がスタートし、ほとんどが未経験者でありながら、日々練習やトレーニングに励んでいます。

ワンダーフォーゲル部

今年度は、2年5名+1年2名+7名で活動しています。今年度は登山活動は実施せず、フィールドワークやキャンプ技術の向上に重点を置いて活動をしています。

剣道部

剣道部は現在、1年生女子3名を新たに迎え、男子3名女子7名、合わせて10名となりました。県総体では個人戦において男子・女子ともに2回戦を勝利し、その

後3回戦敗退となりましたが、日頃の練習で培った力を発揮して、全力で戦うことができました。

これからも頑張っていきたいと思いますので応援をよろしくお願い致します。

吹奏楽部

昨年度の3月には第38回定期演奏会を開催することができ、多くの方に活動の成果を見てもらうことができました。

今年は1年生が41人入部し、2年生22人、3年生21人の84人で活動しています。夏のコンクールや文化祭、そして定期演奏会を目標に日々練習に励んでおります。

囲碁・将棋部

現在、部員は3年男子2名、2年男子3名、1年男子1名の計6名で活動しています。

4月に行われた全国大会県予選では、個人A級で平松くん(2年)が準優勝を果たし、7月下旬に秋田県で開催された全国大会に出場しました。全国大会では予選リーグを突破し、決勝トーナメント進出を果たしました。

また平松くんは、8月9日に行われた近畿大会県予選で個人A級優勝を果たし、11月14日から兵庫県で開催される近畿大会への出場を決めました。さらに、8月12日に関西将棋会館で行われた高校生王将戦では第3位に入賞しました。他の部員も、10月末に行われる

新入大会に向け、棋力向上を目指して日々励んでいます。

文芸部

2年生2名、1年生3名の5名で活動しています。部員は少ないものの、毎週にぎやかに活動を行っています。普段は個々に創作活動を行い、作品を通しての交流や部誌作成に取り組む等、主体的に活動しています。また、県内の文芸部員との交流会や学習会等、校外での活動にも積極的に参加しています。昨年度は高校文芸みえの小説部門で最優秀賞、詩部門の優秀賞に2名入賞しました。

書道部

現在部員は10名で、水曜日と金曜日を全員集合日として自主的に活動しています。

文化祭では、個人作品展示と書道パフォーマンスを予定しています。夏季錬成合宿、みえ高文祭、生徒教員展など高文連主催の行事に積極的に参加しながら、個々の技術を向上させ作品作りをしているのが目標です。

演劇部

令和7年度第70回三重県高等学校演劇大会北勢地区大会優良賞、第44回北勢地区高等学校演劇春季大会金賞、と演劇部門でも入賞し

ていますが、第72回NHK杯全国高校放送コンテスト三重県大会朗読部門優良賞、第45回近畿高等学校総合文化祭放送部門朗読小部門に出場、また令和8年度も、第73回NHK杯全国高校放送コンテスト三重県大会アナウンス部門・朗読部門で優良賞をいただいております。「声」を活かして幅広い活動を行ってまいります。

硬式テニス部

テニス部は現在1・2年生男子18名、女子13名、マネージャー2名の計33名で活動しております。練習時間や活動場所に限りがある中、上位入賞を目標に努力を続けていきます。先日、県の県総体三重県大会団体戦では、女子が準優勝、男子が6位に入賞しました。今後ともご支援よろしく願います。



硬式野球部

副部長に伊藤大希教諭(松阪高卒)を新たに迎え、部員43名(選手38名、マネージャー5名)顧問4名の体制で活動しています。指名打者制導入など、野球を取り巻く環境はめまぐるしく変化していますが、私たちは変わらず「部員・保護者・OB・地域の方の心を躍らす為」に『甲子園出場』目指し頑張ります。

自然科学部

今年度は2年生4人、1年生12人の計16人で活動しています。昨年はR型変光星の研究を行い、みえ探究フォーラムにて優秀賞を受賞しました。一昨年、優勝した科学オリンピックにも挑戦しましたが、科学の甲子園には手が届きませんでした。今年も優勝目指して頑張ります。普段の活動としては、天体観測・カメの生態、メダカの飼育などを行い、自然科学を幅広く研究活動を活性化させていきたいと考えております。

茶道部

今年度は1年生7人を迎え、2年生17人、3年生1人の計25人でお稽古に励んでいます。3月にはお免状を受領した卒業生の相伝式を行い、みんなでお祝いしました。この夏も、南高祭に向けて浴衣の着付けや立礼棚の点前を練習しま

す。今後も、おもてなしの心を持って、一つ一つ丁寧に稽古を積んで参ります。

陸上競技部

昨年度、県高校新人、県高校駅伝女子の部、今年度は県総体と、高体連三大会すべてで東海大会出場を果たしました。新チームでは、さらなる自己記録の更新と県大会での上位入賞、東海大会出場を目標に、日々の練習に取り組んでいます。

音楽部

新入部員が6名入部し、総勢22名で日々楽しくにぎやかに練習に取り組んでいます。コンクールに向けて、立原道造作詞の日本語曲や、ラテン語の宗教曲にチャレンジしています。技術を磨きつつ、聴いてくださる皆様に美しくあたたかい歌声を届けることができるよう頑張ります。

電算無線部

電算無線部は、今年度、3年生1名のみで活動しています。情報室や、家ではChromebookを使ってJavaScript等のプログラミングの学習をしており、文化祭に向けて、ゲームの作成を行っています。

進路状況

今年度入試の主な国立大学合格校は、難関10大学では、北海道大学（1）、東北大学（1）、名古屋大学（13）、大阪大学（2）、神戸大学（2）となりました。また、三重大学医学部医学科に現役で1名が合格しました。医学部医学科への現役合格は、過去10年間を遡っても記録がなく、特筆すべき成果となりました。続いて、ブロック大学では金沢大学（2）、広島大学（3）、岡山大学（1）、大阪公立大学（1）、比較的近隣の地方国立大学では信州大学（1）、静岡大学（8）、愛知教育大学（3）、名古屋工業大学（5）、岐阜大学（2）、奈良教育大学（1）となりました。また、主な公立大学合格校は、静岡県立大学（1）、愛知県立大学（2）、名古屋市立大学（6）、岐阜薬科大学（1）、三重県立看護大学（3）、滋賀県立大学（1）、京都府立大学（1）、神戸市外国語大学（1）となっています。

教育学部数学教育コース等への合格者数が合わせて30名となりました。文系生徒についても、人文学部・教育学部（幼児教育、英語教育等）を中心に、合わせて18名の合格者を出しました。また、今年度入試の特徴として、昨年度入試からの揺り戻しの影響による福井大学への出願増加が挙げられます。本校では6名が出願しましたが、合格者は2名にとどまりました。一方、昨年度に出願が増加した富山大学は、8名の出願に対して4名が合格しました。

学部別の特徴では、「工学（情報系を含む）」の合格者比率が33%（昨年34%・第1位）と最も高く、例年通りの傾向となりました。第2位は「農林畜産・生物生命・環境」13%（昨年8.9%・第3位）となり、昨年度に引き続き順位を上げました。理系需要の高まりに伴い、生物系理系の生徒数が維持されていることが影響していると考えられます。第3位は「教育」10.8%（昨年13.1%）で、昨年度からさらに順位を下げる結果となりました。「教育」分野については、近年の教職人気低下の影響もあり、昨年度より2.3ポイント減、一昨年度より11.2ポイント減となっています。三

重大学教育学部は、令和10年度（令和9年度実施）入学者選抜から、前期日程の定員を170人から100人へ大幅に削減し、その代わりに総合型選抜を40名、学校推薦型選抜を30名へ増加することを公表しています。地元で教員を目指す生徒は、これまで以上に一般選抜への対応に加え、総合型選抜や学校推薦型選抜への準備も求められることになると考えられます。第4位は、「経済・経営・商学」9.2%（昨年7.7%・第4位）で、昨年度と同様の結果となりました。「看護」については、地元で看護師（助産師・保健師）の資格取得を目指す点で、根強い人気につながっていると考えられます。

今年度の国公立大学延べ受験件数は、昨年度とほぼ同数の342件となりました。学校推薦型選抜を利用した受験生は58名で、昨年度より5名増加しました。また、合格率は53.4%で、昨年度を0.6ポイント上回っており、受験した生徒たちは健闘したといえるでしょう。

私立4年制大学の延べ受験校数は2166校、受験者数は301名でした。1人あたりの平均併願校数は7.20校となり、昨年度の5.70校から1.50校増加、一昨年度の5.23校と比較すると197校の増加となりました。受験形態別に見ると、一般入試型の受験数は延べ1545校（昨年延べ1234校）で311校増加しました。共通テスト利用型の受験数は延べ457校（昨年334校）で、123校増と大幅な増加となっています。各大学では、共通テストを利用した受験方式や併願パターンを多様化させるとともに、受験料の割引・減額制度を拡充することで、出願数の増加を図っています。

受験延べ2166校に対する総合合格校数は1001校であり、合格率は46.2%でした。昨年度は56.8%、一昨年度は58.4%、その前年も56.8%であり、これまでは55〜60%前後で推移していましたが、今年度は実力以上の大学への挑戦的な大量出願も見られたことから、合格率が大きく低下しました。一般的に、私立大学は生徒数減少の影響により、年々易化傾向にあります。そのような中で、自身の実力を正確に把握し、無理や無駄のない受験計画を立てることが重要になってくると考えられます。

全合格数に占める学部別割合を見ると、第1位の「工学」が31.5%で、昨年の39.5%から約8ポイント減少しました。一方、第2位は「経済・経営・商学」22.3%（昨年12.3%・第2位）で、約10ポイント増加しました。これは、理系受験者の一部が文系学部へ進路変更した影響と考えられます。第3位は「社会」16.9%（昨年12%・圏外）、第4位は「文学」16.2%（昨年5.4%・圏外）、第5位は「法・政治」9.2%（昨年4.3%・第6位）となりました。近年は理高文低の傾向が続いていましたが、今年度は文系人気の回復が見られる結果となりました。なお、第6位は「薬学」5.4%（昨年1.8%・圏外）となっています。国公立大学での合格が難しい一方、近隣私立大学に薬学部が設置されていることもあり、志望を優先した生徒が進学したものと考えられます。

合格数が最も多かった「工学」系について大学別合格数を見ると、第1位・第2位は昨年と同様に、名城大学80名（昨年116名）、中京大学30名（昨年50名）となりました。以下、立命館大学29名（昨年24名）、近畿大学19名（昨年17名）、愛知工業大学16名（昨年34名）、南山大学16名（昨年21名）、中部大学11名（昨年32名）、同志社大学8名（昨年13名）となっており、昨年度から見られた関西圏人気大学の進出傾向が、さらに強まったといえます。私立大学易化の傾向を背景に、強いブランド志向や地元志向が見られます。

また、文系（「経済・経営・商学」「社会」「文学」）の大学別合格数を見ると、こちらにも強い地元志向が表れ

ています。第1位は南山大学73名、続いて名古屋外国語大学65名、名城大学57名、中京大学54名、愛知大学41名となっています。

学部を問わない大学別の受験件数（1人が同じ大学を複数回受験した場合もすべて含む）を見ると、名城大学467件（昨年440件）が最多となりました。第2位は南山大学216件（昨年156件）、第3位は中京大学184件（昨年144件）となっています。昨年度と比較すると、南山大学は60件増、中京大学・立命館大学はいずれも40件増となりました。関西圏の他大学でも、近畿大学86件増、龍谷大学17件増、関西学院大学18件増、同志社大学9件増という結果となっています。

私立4年制大学の合格結果は、受験者の学力層や志望動向を反映するものです。しかし、各模試における志望者動向の綿密な分析、自身の得意・不得意に応じた傾斜配点や共通テスト利用方式の活用、さらに早期からの徹底した過去問対策の三点を真剣に行い、最後まで粘り強く受験に取り組む姿勢が、志望大学合格のためにますます重要になってくるといえるでしょう。

（進路指導部 瀧野直哉）

大学等合格状況（令和7年度卒業）

国立大学

大学名	数理	普通	既卒	合計
北見工業	1			1
北海道		1		1
室蘭工業		2		2
岩手		1		1
東北	1			1
筑波	1	1		2
宇都宮	1			1
東京学芸		1		1
横浜国立	1			1
富山		4		4
金沢		1	1	2
福井	2	1		3
山梨	1			1
信州	1			1
静岡	2	5	1	8
愛知教育	2	1		3
名古屋	7	5	1	13
名古屋工業	4	1		5
岐阜	1	1		2
三重	12	36	1	49
大阪	2			2
神戸	1	1		2
奈良教育	1			1
和歌山		2		2
岡山		1		1
広島	1	2		3
山口		1		1
香川	1			1
福岡教育		2		2
国立大学合計	43	70	4	117

公立大学

大学名	数理	普通	既卒	合計
高崎経済		1		1
富山県立	1	3		4
石川県立		1		1
公立小松		1		1
岐阜薬科	1			1
静岡県立		1		1
静岡文化芸術	1			1
愛知県立		2		2
名古屋市立	3	3		6
三重県立看護		3		3
滋賀県立		1		1
京都府立	1			1
大阪公立		1		1
神戸市外国語		1		1
兵庫県立	1			1
島根県立		1		1
広島市立		1		1
下関市立	1			1
公立大学合計	9	20		29

国公立大学医学部医学科

大学名	数理	普通	既卒	合計
三重（医）	1			1

私立大学

大学名	数理	普通	既卒	合計
学習院		1		1
北里	1			1
慶應義塾		1		1
工学院	1	2		3
駒澤		3		3
芝浦工業	1	1		2
成城		1		1
中央		7		7
東海		1		1
東京農業		2		2
日本	1	2		3
日本体育		1		1
武蔵		1		1
東京都市		1		1
武蔵野		3		3
明治		1		1
立教		2		2
早稲田		1		1
麻布	1			1
神奈川		1		1
関東学院	1			1
金沢工業		2		2
岐阜聖徳学園		2		2
岐阜医療科学		1		1
星城		1		1
名古屋学芸	8	10		18
愛知	6	35		41
愛知学院		22		22
愛知医科		1		1
愛知工業		17		17
愛知淑徳	5	16		21
金城学院	3	16		19
椋山女学園		6		6
大同		7		7
中京	14	76		90
中部	14	20		34
豊田工業	5			5
名古屋音楽		1		1
名古屋外国語	33	32		65
名古屋学院		12		12
名古屋経済		1		1
名古屋芸術		3		3

名古屋商科

		1		1
名古屋葵		4		4
名古屋造形		1		1
藤田医科		5	1	6
南山	34	55		89
日本福祉		2	2	4
名城	71	101	2	174
東海学園	2			2
皇學館	1	7		8
鈴鹿医療科学	13	43		56
四日市	1			1
四日市看護医療	1	17		18
長浜バイオ		3		3
大谷	3			3
京都外国語	2	3		5
京都産業	6	6	1	13
京都女子		1		1
京都芸術		1		1
京都橘		5		5
同志社	7	14		21
同志社女子		1		1
立命館	27	39	8	74
龍谷		24		24
森ノ宮医療		2		2
大阪医科薬科		2		2
大阪工業		1		1
関西	2	10		12
関西外国語	4			4
近畿	10	41	2	53
関西学院	10	4		14
大和		4		4
岡山理科	1			1

国公立短期大学

大学名	数理	普通	既卒	合計
津市立三重短大		1		1

専門学校

専門学校名	数理	普通	既卒	合計
三重公務員学院		1		1



令和8年度 四日市南高等学校全体同窓会報告

令和8年8月8日、都ホテル四日市にて、四日市南高等学校全体同窓会が開催されました。

前半の総会では、矢野正剛同窓会会長より、在校生の憩いの場となる「南高テラス（仮称）」の設置を、70周年事業を見据え、前向きに検討していく考えが示されました。その後、令和7年度の事業報告および決算報告、令和8年度の事業計画および予算案が審議され、いずれも承認されました。また、一部規約の改正についても承認されました。改正後の規約については、10月に同窓会ホームページへ掲載する予定です。

総会の最後には、本会の理事として長年にわたりご尽力いただいた19期の浦田治様より、理事退任のご挨拶をいただきました。これまで同窓会を支えていただいたご功績に、改めて感謝申し上げます。

後半の懇親会では、32期生の幹事の皆さんが「南高校応援歌」の歴史について探究した成果を披露してくださいました。さらに、1期生の笹間様、

岡田様、多田様から、「当時は校歌として歌っていた」との貴重なお話を伺いました。「南高校応援歌」もまた、校歌とともに大切に受け継いでいきたい本校の歴史の一つであることを、改めて感じる機会となりました。

なお、来年度の全体同窓会は、令和9年8月14日（土）を予定しております。詳細については、令和9年6月頃に同窓会ホームページにてお知らせいたします。

また、来年度の幹事学年は33期生の皆さまです。33期生の同窓会幹事の方は、事務局までご一報ください。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



第24期還暦同窓会報告

令和8年8月8日、「Back_To_The_NANKO ～時間旅行を楽しむ～」をテーマに第24期卒業生が還暦同窓会を開催しました。恩師を招いて母校でオリエンテーリングを楽しみ、都ホテル伊勢の間で旧交を温めました。イベントを通じ、41年の時空を越えて時間旅行を満喫し、最後に音楽部指揮により参加者全員で校歌を大合唱。自由な校風と「誇りを胸に！」の校訓に育ったアイデンティティを感じ、それぞれの思いも新たに文字通りの「還暦」…暦をリスタートする一日となりました。

第32期同窓会報告

令和8年8月8日、四日市南高校全体同窓会が開催され、1993年3月卒業の32期生が幹事を務めました。全体同窓会後に学年同窓会も開催し、44名が参加。3年時担任の細見和典先生にもご出席いただきました。コロナ禍の影響で7年ぶりの開催となりましたが、久しぶりの再会に会場は終始にぎやかな雰囲気包まれ、二次会まで大いに盛り上がりしました。今回はLINEグループを中心に案内を行いました。今後もSNSを活用しながら、5年ごとの開催を目指していききたいと思います。ご協力いただいた南高校事務局の皆様に、心より感謝申し上げます。

第18回四日市南高校東京同窓会のご案内

【日時】令和8年10月17日（土） 受付開始12:30 開宴13:00

【会場】日本橋三井テラス 1階レストラン

【会費】8,000円（飲み放題、ビュフェスタイル）

☆調整さんより出欠の入力をお願いします。

ご質問等は東京同窓会世話人 20期 小野寺健一（090-3087-0603）までご連絡ください。

四日市南高校同窓会ホームページにも掲載いたします。

《同窓会ホームページ》

https://www.mie-c.ed.jp/hsyokk/07_Alumni_association/index.html



出席確認用

第14回四日市南高校同窓会ゴルフ大会のご案内

【日時】令和8年11月11日（水） 8時より IN OUT スタート
（正式な時刻は追って案内します。）

【場所】四日市カンツリー倶楽部

〒512-8048 四日市市山城町640 TEL 059-337-1111

※詳細は四日市南高校同窓会ホームページに掲載します。

【お申込み方法】

以下のURLまたはQRコードよりGoogleフォームでお申し込みください。<https://tinyurl.com/2d7taxt8>

【お問い合わせ先】

15期 矢田まさき TEL.090-3309-3181 30期 石井ともみつ TEL.090-1567-5685



2026同窓会役員名簿

【同窓会役員】

・会 長 矢野 正剛 氏（7期）

・副 会 長 山路 熟 氏（14期）

大日方敏之 氏（15期）

・書 記 水谷 正美 氏（23期）

川村 公博 氏（25期）

・会 計 小柳 秀樹 氏（20期）

安達 勝也 氏（21期）

・広 報 矢野 哲也 氏（29期）

田中 大輔 氏（30期）

・監 事 服部 圭一 氏（19期）

大市 秀樹 氏（28期）

【学校側】

学 校 長 西川 俊朗 顧問

主幹教諭 藤端 千絵 特別会員

教 諭 伊藤明日奈 //

// 岩田 礼子 //

// 岩田 智之 //

// 小林 仁 //

// 三徳ゆかり //

// 鈴木 正司 //

// 鈴木 里香 //

// 出口 宜是 //

// 福井 翔大 //

養護教諭 水谷日向子 //

【連絡先】

〒510-8562 四日市市大字日永岡山4917

三重県立四日市南高等学校同窓会事務局

TEL.059-345-3177・3178 FAX.059-345-9549

https://www.mie-c.ed.jp/hsyokk/07_Alumni_association/index.html

E-mail hsyokk-dousou@mxs.mie-c.ed.jp

事務	山下 夏奈	養護	伊藤 満起	芸術	東原 恵子	社会	廣田 育男	国語	渡邊 由行	【転出】	英語	服部 圭一	英語	西村 幸三	理科	清水 洋子
	四日市県税事務所		西日野にじ学園		四日市西高		桑名高		桑名高	【転出先】						

事務	西川 真妃	養護	永井 真由子	芸術	水谷 日向子	社会	山上 加奈	国語	伊藤 大希	理科	児玉 照美	英語	片岡 雅夫	英語	安井 英里子	国語	須貝 冬汰
	農林水産部		稲生高		紀南高		四日市西高		尾鷲高		桑名工業高		桑名西高		稲生高		白子高

教職員異動

令和8年度（敬称略）

【転入】

【前任校等】